

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

グループホーム すまいる

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者向けの座って出来る体操教室を 8月より取り組んでいるが 今後定期的に行う予定。(1回目8/18)		
3.理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地区や近隣との付き合いにおいて外部評価の指摘もあり夜間に開催していた映写会を日中にしたりして参加を呼びかけ効果が上がっている。地域の方のボランティアの受け入れも行っている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	消防署よりスプリンクラー設置の義務の通知を受けた為 運営推進会議で消防本部の指導係より2名出席をお願いし 市の介護保険課より先出席願って設置の経過措置等の詳細を伺った。又すまいるの行事報告等行っているが 話し合いや意見をサービス向上に活かすまでには到っていない。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福津市のキャラバンメイト養成研修に職員が3名参加 又市の認知症啓発事業 認知症の人を地域で支える町づくりのイベントにすまいるをアピールするパネルを出品する予定		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の地域福祉権利擁護事業についての介護講座を2名受講 その後職員に伝達講習を行っている。又家族会で成年後見制度について説明している。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し全職員が周知徹底している。法人内の抑制廃止対策委員会にも 職員が3か月毎に出席しスピーチロックについての意識調査等をすまいる内で報告している。又包括支援センター主催の「介護従事者の為の権利擁護」の学習会に出席予定		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだら解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解 納得を図っている</p>	<p>入所 退所時等に十分な説明を行っているが疑問があればいつでも説明する旨伝えている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的に利用者とのコミュニケーションを図り 利用者が意見 不満 苦情等を訴えられた時はカンファレンスを行い 出来るだけ迅速に解決するようにしている。場合によってはご家族に協力をお願いしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りの発行 家族会の開催は3ヶ月に1度実施している。面会時 管理者や担当者から日々の暮らし方や健康状態を伝え職員の移動は 面会時や家族会にて紹介している。金銭管理は家族会の開催時金銭出納帳の点検と残金の確認をしてもらい押印をお願いしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情等申し立て先を開示しいつでも家族が意見や不満を職員に伝えたり相談できるよう 面会時声かけ 連絡等 積極的に行っている。ホームの玄関に意見箱を設置している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回ミーティングを行い 意見を出し合い反映させている。法人の看護部長や管理者が 年2回面談を行っており出来るだけ発言出来るようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>季節によって散歩や行事 利用者の状況に合わせて対応出来るよう必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の希望による法人内の移動があったが 移動による利用者への影響が最小限になるように配慮している。</p>	

グループホーム すまいる

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては 年齢 性別に関係なく グループホームの理念を伝え 適した資質を有する人材を採用し 法人内の配置転換も本人の希望を取り入れて行っている。</p>	
20	<p>人権教育 啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人内の研修や社会福祉協議会 市の包括支援センター主催の権利擁護研修に参加し すまいるで報告を行っている。</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホームの新入職員の研修システムがある。又法人内の研修や外部の研修等にも経験等に応じて参加の機会を設けている。研修後伝達講習も行っている。</p>	
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の全体集会やBグループホームの方々と相互訪問 見学して 今年介護者のストレスについて話し合いを行い来年の実践者報告会で発表する予定</p>	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人の看護部長や管理者が 年2回面談を行っており 出来るだけ発言出来るようになっている。</p>	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>職員の多種の資格取得等や 学業にも出席できるように勤務を組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>入所相談時に ご家族と本人と一緒に訪問されよう計画し すまいるで生活していく上での不安や困ることを聞く機会を作るようにしている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の見学や入居申し込みの時点から聞き取り 機会を設けて事前にすまいるに来ていただいて 現在困ってある状況等を聞き取り受け止め グループホームの理念や外部評価の結果 成年後見制度の説明を行うようにしている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所相談の時点から グループホームの生活に本人が他のサービスも含めた対応が必要かどうか 場合によっては考慮する。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく 職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご家族の生活に対する意向や ご本人がグループホームに移りすみ 他の入居者や職員と共同で暮らしたり支えあっていく事が可能か すまいるの雰囲気に触れてみて サービス利用を考えてもらっている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり 支えあう関係を築いている</p>	<p>職員はご本人の生活暦等をご家族に記入していただいたセンター方式等で知り注意深く様子を見ながら喜怒哀楽を共有できる信頼関係を築いている。</p>	

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	花見(桜 藤 菖蒲)や家族会の草取り、バーベキュー等に参加を呼びかけ利用者を一緒に支えていく関係を築いている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の面会の際、心身の状況や日々の暮らしぶりを伝え、ホームだよりの生き生きした場面の写真を掲示し、お誕生日に一冊のアルバムにして渡している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームでご家族や友人等と楽しみに集まりお茶のみしたりしてゆっくり交流できる雰囲気作りをしている。ご家族と自由に外出できるように支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い入居者同士で、ゆっくりお話ができるような場を設けたり、トラブルがあった場合は原因を把握し会話の調整をして不安や支障を生じないように努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所(入院等)された方の様子を見に面会に行ったりご家族にお会いした時はお話を伺ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中でセンター方式等で出来る出来ないされるかされないかの答えを引き出し ご家族にも生活に対する意向を聴いて検討している。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>おやつや時間や日々の暮らしの会話の中からこれまでの色々の生活歴や暮らし方の情報を得て ご家族にも生活歴等を差しさわりぬい程度記入してもらっている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者一人一人の一日の心身の状態等を健康チェック表や介護チェック表 排泄チェック表等で把握し 落ち着いた利用者にはさげなく見守り対応している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人やご家族の意向と本人の状態 職員の視点等を担当者会議やモニタリング等で話し合いケアに反映できる様にプランを立てている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状態が変化した時(入院 ケガ)やご家族 本人の意向 モニタリングによって見直し 計画を変更している。</p>	

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践 結果、気づきや工夫を個別記録に記入し 情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表や介護チェック表又はセンター方式 ICFのたちあげシート等を活用し介護計画の見直しを行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在支援の計画はない。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化 教育機関等と協力しながら支援している	6月の運営推進会議に消防署からの出席を依頼しスプリンクラーの設置義務化について詳細をうかがった。又週 1~ 2回のボランティアを受け入れて習字や七夕の飾りつけ等を入居者に指導していただいている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在該当者はいない		多様性を生かした何が出来るか検討する。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は行っていないが 地域包括支援センター主催の権利擁護の研修を9月受ける 又運営推進協議会にも出席していただく事になっている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に月 1回受診し 入居者とご家族に担当者が付いて行き健康状態を共有する事を 入所時説明し実施している。		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者や認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に受診し認知症の日ごろの状況をご家族と一緒に相談し診断や治療を受けられるよう支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師資格を有する職員1名と訪問看護師が毎週1日2時間位訪問し、入居者の健康管理やスタッフからの相談、アドバイスをやっている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	職員が出来るだけお見舞いに顔を見せ安心感を持たせ主治医や看護師と情報交換し治療がスムーズに出来るようにしている。又ご家族とも退院に備えて話し合いをおこなっている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会でターミナルについての指針についてはお話している。又職員も方針を共有している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルの指針に添ってご家族とDrの話し合いで決まれば検討し準備する。が現在該当者なし		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在該当者なし		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>汚れた衣服を隠す利用者や食後のこぼしや口周りの汚れ等のある利用者には プライベートを傷つけないように配慮しながら支援している。個人の記録には入居者の個人名は記録しないようにしている。職員は個人情報保護の誓約書に署名している。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたし納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>おやつ時やその都度利用者の思いを聞いている。意思表示が十分出来ない利用者にはゆっくり話されるのを待つ対応している。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>衣服の着脱 入浴の洗身等時間がかかっても自分でして頂き出来ないところや補助が必要などのみ援助している。次の動作が分からなくなっている利用者にはさりげなく声をかけている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎日の服装選びや外出時 季節や気温などに合うように適切に支援している。起床後整容時髪を整える時も鏡を見てご自分で身だしなみが出来るよう 声かけ 助言をおこなっている。ご本人やご家族と相談し髪型の希望を聞いてグループホームの出張サービスを利用している。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>何の料理を作るのか話しながら野菜を切ってもらったり出来る事をしてもらっている。料理ができたらずぎ分けや配膳や配茶をしてもらいゆっくり食べ、大体皆が食べ終わってお茶碗洗いやお茶碗拭きなどの片付けを一緒にしている。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物は熱い冷たいの好みにあわせ おやつも甘い辛いの好みに合わせてお出ししている。また口腔の状況(義歯や歯の治療中など)でミキサー食やソフト食 少しきざんだりして食事を入居者の状況に合わせておだししている。</p>	

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターン表で各自の排泄パターンを把握し、さげないトイレ誘導等支援をしている。失禁による汚染がある時は他の入居者に気づかれないようさげなくトイレ誘導している。本人やご家族の意向を考慮しながら入居者に合わせて紙パンツや布パンツまた夜間はオムツ等使い分けている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っているが、体調や入居者の希望に合わせてタイミングよく声かけ支援している。入浴を嫌われる入居者には前もって好きな話や歌を歌ったりして介護者とよい関係を作って入浴を支援している。ご家族とそうざんして無理強いしての入浴はしない。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の生活パターンに合わせ、朝は本人の目覚めを把握して起床時の支援をし、夜は就寝の準備を支援し居間でテレビを楽しんだりして夫々眠気を察知し就寝を促している。場合に依っては日中でも心身の状況に合わせて本人に確認し臥床を促す事がある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活習慣を生かし、したい方、出来る方には家事や花瓶の水替え、カーテンの開け閉め等を自主的にされるように支援している。週数回ボランティアの方が来訪された時習字、折り紙、生花等を入居者の方々が楽しみにされている。四季の行事に合わせておはぎや団子、恵方巻き等をしている。夏はそうめん流し、花火、2~3ヶ月毎に映画上映もおこなって		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週、日曜日にはスタッフと近くのコンビニへ行き、昼食の主食のパンやおやつを選んでもらっている。仏様に上げるお菓子など買い物される時はご家族からの預かり金から支払いしたり、財布を所持し買い物で使えるように支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	春など気候の良い時期には、交替で田圃道を散歩しナズナを採って来たり、近くのケアハウスの花壇を見て回ったり、外に出たいと言われる時には職員が1名携帯電話を持って付き添って出かけている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	花見の時期(桜、藤、菖蒲など)の外出時はご家族にも声かけし車椅子ごと乗れる車と運転される方を法人にお願いして全員で出かけている。昼食やおやつを用意しゆっくり散策して帰るようにしている。個別的な外出希望はご家族に伝え支援している。		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や小包が届いたら電話でお礼を伝えるお手伝いや手紙の代筆をしたり 本人からの要望で電話を頼まれたらスタッフルームで音量を大きくしてやり取りができるよう支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や親せきの方々にいつでも気軽に来訪しゆっくお話ができるようお茶やお菓子をお出してくつろいで頂けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	H14年抑制廃止宣言をして以来 言葉での禁止や指示の声かけをしない様に 又利用者各自の転倒等のリスクに対し 介護上の工夫をしている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており 鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には鍵をかけない様にしているが門扉には鍵をかけている。		門扉については 尚検討中
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全ての入居者の動きや状態を把握できるように様々な業務を行いながら居間や食堂でさりげなく見守りしている。夜間は定期的に訪室し入眠を確認しています。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や漂白剤は洗濯場の上のボックスの中に 入居者の裁縫箱はスタッフルームに預かり見守って裁縫をしてもらっている。夜間歯磨き粉や化粧品を口にされない様にお預かりしている方もある。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策のマニュアルがある。転倒防止の為に家具の位置を変えたり 誤嚥時の対応を学んだり 薬は日付と名前と朝昼夕を書いて確認しながら服薬確認をしている。防災は定期的に法人内の消火訓練に参加 すまいるでは避難訓練を年2回行い 安全委員会や防災委員会にも参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署主催の救急救命講座に参加したり 訪問看護師に急変時の対応について指導を受けている。 夜間 看護師や医師への連絡や緊急時の連絡方法については スタッフルームの電話の横にクリアブックを置いている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回定期的に訓練をしている。 地域の特定の方をお願いして了解を受けている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒やケガ等のリスクの説明を文書で行い リスクに対する意向も伺いながら対策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている	日常的に健康チェックを行い 訪問看護師や主治医との連携 職員間の情報交換を密にして 異変の早期発見 悪化防止に努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており 服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内科受診後 ご家族から薬と説明書を一緒に預かり 薬の作用や副作用を把握し Drの指示どう服薬介助し 症状の変化がないか確認に努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し 予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促すため体操や家事仕事等身体を動かす機会を増やしおやつや入浴後水分を食事には繊維のある野菜や牛乳を多く摂られる様に工夫している。 排便の確認がとくに入居者にはトイレ後直ぐに聴き取るなどの工夫をしている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨き(義歯洗浄)を行い 夜間義歯を預かりボリデンDに漬けている。 又3か月に1回定期的に歯科受診し 歯磨きの指導を受け 口腔ケアを行っている。		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養課で作成される献立と栄養バランスガイドに添ってカロリーや塩分入居者の状態に配慮した食事メニューを提供している。また行事食なども取り入れ喜んで食べていただけるようにしている。水分については毎食事以外にも色々な飲み物を用意し飲んでもらい各自利用者の摂取量をチェックしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員の出勤時の手洗いやうがい 入居者の食事や家事の前の手洗い等日常的に行っている。職員が感染についての研修に定期的に出たり 感染症マニュアルに沿って行動できるように知識を深め対応できるようにしている。インフルエンザの予防注射は可能な限り受けるようにしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	業者や生産者から新鮮な野菜が届いたり 安全な食材を業者から提供してもらうようにし その日に使い切ることができるだけ早く調理し 直ぐに食べるようにしている。使った調理器具や布巾を毎食後消毒し清潔な物を使用できるようにしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の外にベンチを置き 夏には朝顔を這わせる等する事で 外を歩かれる方も挨拶をかわすようになってきた。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に職員が生花をいけ 廊下には入居者の方々の日ごろの生活の写真を貼るなどしてなじみ易いようにし 中庭に植えた季節の野菜や花などを眺められるように椅子を置いている。台所は自由に出入りできるようにしている。リビングには自然の明るいひざしがふんだんに入るので季節によっては光を遮りソファや食事のテーブルの配置を工夫しながらゆっくりにくつろげるようにしている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり 気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった入居者同士が一緒に話をしたり座って過ごせる様にソファなどの配置を工夫したり 中庭を眺めながらゆっくりにくつろげる様に廊下に椅子を置いたり 一人で過ごしたい時は和室で静かにゆっくりにくつろいでもらえる様にしている。		

グループホーム すまいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時自宅で使用されていた物を持ってきて頂くようお願いしている。昔ながらの習慣を尊重し、仏様にお酒やおごくやお茶を供えるお手伝いをしたり、落ち着いて生活出来るように支援している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後や掃除時、午後全室換気し、風邪等の時期には換気扇をONにして、温度調節のため全体的には廊下の冷暖房を使用し、冷えすぎ暖めすぎない様に個々の部屋の温度調節を小まめにしている。冷暖房を嫌われる方の部屋は食事中など部屋に居られない時に温めたり、涼しくするようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者個々の状態に合わせて転倒防止の為、PTに相談して、居室のベッドの位置を変えたり、出来るだけ行動範囲を広げて活動できる様に、車いすを利用したりして、安全に暮らせるように支援している。トイレや廊下には手すり先設置され、トイレは車イスや歩行器で入れる十分なスペースがある。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室が入居者夫々の表札で分かるように担当者が工夫をしている。夜間トイレの場所を分かるように足元ランプやトイレの電気を一晩漬けている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関や中庭等にベンチを配置し、家族会のバーベキューや素流し花火などの時に利用してもらっている。庭に面した廊下にイスを並べて皆さん座って中庭で育てている季節の野菜や花の成長を楽しまれている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に つつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者職員が、一緒にゆったり過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム すまいる

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くない
100	職員は、活き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の 2/3 くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の 1/3 くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の 2/3 くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の 1/3 くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の 2/3 くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の 1/3 くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設当時より利用者の介護度が上がってきていますが 家庭的な環境を保ち 利用者の方々に意向を聞きながら 出来る家事(野菜切り お茶椀拭き 配茶 洗濯たたみ等)を続けています。座って出来る体操教室を開き ポスターを掲示し 地域の方々にも参加していただけるように続けていきたいと思ひます。